



にしきの つうしん
錦乃通信

Mamiya J.H.S School News

令和6年3月1日(金)

さいたま市立馬宮中学校

令和5年度 第11号

学校教育目標

未来を拓け ~自己の創造・生きる自信~

SINCE 1947

School Education Goal

Open your Future ~Self Creation ・ Confidence to live~

「立志」

校長 ^{うえ} ^だ ^{やす} ^{まさ}
上田 泰正

校庭の木々も芽吹き始め、春の足音が聞こえはじめる季節になりました。

1年生は、未来(みら)くるワーク体験を行い、職業について学びました。2年生は、自然の教室を終え、学年集団としての行動力が高まりました。3年生は、卒業まであと2週間余りとなりました。3年間学んできた馬宮中学校での思い出を胸に、それぞれの夢や希望に向かって旅立ってください。すばらしい卒業式になることを期待しています。

さて、生徒の皆さんは孔子の『論語』を御存知でしょうか。その第2章「為政第二」の第4に「吾十有五(われじゅうゆうご)にして学に志す」(私は15歳で学問に励む決心をする)とあります。「十有五」にあたる3年生にとって、それぞれの進路先に合格することはゴールではありません。それまでにどんなに苦しい努力があったとしてもです。義務教育を終える3年生にとっては、次の世界へのスタートであり、人生のひとつの通過点なのです。大切なのは、これから何を、どのように学ぶかです。夢の実現に向けて、学びの道を拓くことです。論語は、この後、「三十にして立つ(30歳でひとり立ちする)」、「四十にして迷わず(40歳で迷いなくなる)」、さらに五十、六十、七十、と続きます。節目、節目での人のあるべき姿を示しています。まもなく「義務教育を修了する」という大きな節目を迎える3年生の皆さんの卒業後の活躍がとても楽しみです。

最後に、少し古いですが、ある中学校3年生女子の投書を紹介します。

「昨日より今日」変わった自分

自分が中途半端だと意識し始めたのは中学生最後の夏だろうか。成績が上がらない。周囲は自分の勉強方法を見つけ、努力している。そんな姿を見るのがつらかった。「自分にはできない」「逃げたい」。そんな思いを抱えていると、ある先生が相談に乗ってくれた。

先生はこう言った。「何もかもが中途半端。自分なりに頑張るのは努力ではない。他人と比べるな。昨日の自分と比べろ。」その言葉を聞いた瞬間に涙があふれた。自分の真意を見抜かれた気がした。

その日から約半年がたった。私は少し変わることができたと思う。うまく言葉にはできないけれど、光が見えた感じがする。その光が自分の未来と重なることを信じて、大人になっていきたい。明日、明後日、何が起こるか分からない、でも「昨日より今日。そして、今日より明日。」を胸に歩んでいきたい。

(平成25年3月10日(日) 毎日新聞 みんなの広場 より)

今日の皆さんは、昨日の皆さんではありません。日々、必ず成長しています。自信と誇りをもって卒業、そして進級してください。